

平成 27 年度 第 3 回

白石町まち・ひと・しごと創生推進会議要録

日時：平成 27 年 10 月 8 日（木）9：30～

場所：楽習館 2 階研修室

■会長（副町長）あいさつ

朝晩、めっきり、涼しくなってきた。

皆様方にはお忙しい中、まち・ひと・しごと創生推進会議に出席していただき、ありがとうございます。

前回 7 月 8 日では、皆様に色々ないいアイデアを出していただいた。それ以降、8 月 8 日には、「しろいしの未来を語ろう会」を開催して、97 名の町民の方に参加をいただいた。また、その間、色々な団体から意見をいただいた。白石町に関心をいただいて感謝している。

今回の会議は、今まで出していただいた意見をもとに総合戦略の骨子の素案を作成している。その案について協議をお願いする。活発なご意見をお願いする。

■協議事項

（1）今後のスケジュールについて

「しろいしの未来を語ろう会」のご意見をはじめ、各団体からご意見をいただいて、9 月議会が終わった後、役場内の白石町人口・将来問題プロジェクト会議で 3 回ほど協議を行った。その協議結果を総合戦略の骨子としてまとめている。明日、本日と同じように議員に説明する。

本日と明日の協議結果をもとに、15 日に役場内の人口・将来プロジェクト会議、21 日に庁議ということになっている。総合戦略の素案ということで、皆さんの意見を反映した形にする。また、10 月 28 日に第 4 回まち・ひと・しごと創生推進会議を開催することになっている。

この人口ビジョン、総合戦略については、11 月いっぱいで作りたいと考えている。全国的に役場だけで作成する機会が多いが、「しろいしの未来を語ろう会」を行ったり皆さんのアイデアや意見を取り入れることにしている。また、推進会議についても、他の市町ではメンバーの公募を行っているところも少ないということで、住民の方の意見を多く取り入れるよう工夫をしている。このように皆さんの意見を取り入れて、じっくり作るということと、来年度予算に間に合うように 11 月いっぱい策定する。

みんなのアイデア一覧表について、農協、漁協、商工会などの皆様に提案書を書いてい

いただいた。ワールドカフェ方式でやるとお願いしたが、日程等の都合により、提案書を提出していただくことになった。また、白石高校や佐賀農業高校の先生方からも提案書をいただいている。

子育てサークルの方に意見を聞くため、8月26日にワールドカフェを行った。また、7月23日には人口・将来問題プロジェクト会議でワールドカフェを行った。

そこででてきた意見をみんなのアイデア一覧表としてとりまとめており、意見が多かったものを3～4ページに掲載している。

役場職員だけでなく町民の方にも考えていただいている。役場職員だけでは成功しないため、みんなで考えることにした。

アイデアの内容については、具体的な施策が少なかったため、例えば、PRをするというアイデアに対して、具体的にどういうふうにしていくのかを役場で考えた。

(2) 佐賀県人口ビジョン、及び佐賀県まち・ひと・しごと創生総合戦略会議について

佐賀県の人口動向について、国勢調査によると、1955年には、97.4万人いた人口が2010年には85万人に減少している。

人口減少の変化については、2020年、2040年、2060年時点での市町別ごとに整理しており、白石町は2020年には減少率10～20%、2040年には、30～40%、2060年には、40～50%となっている。

年齢別転入・転出の状況について男女ともに18歳から22歳について減少が多くなっている。主な要因として、大学進学で県外へ流出している。

県内の就職率についても総数2,664人のうち、県内に就職したのは、1,564人である。

人口の将来展望について、佐賀県の推計に使われた数値は、現在、県の特出生率1.61の数値であり、その数値は、2020年までに1.77、2030年に1.8、2040年に2.07に上昇させると仮定している。その設定で、2040年の将来人口は、社人研の54.3万人に対して、県の推計65.7万人に増加をしている。

県の将来の目指すべき方向について4つの柱があるが、これに基づいて4つの総合戦略を立てている。

■佐賀県の総合戦略について

佐賀県は、今年9月に策定をしており、基本目標を4つ立てて、それに基づき施策を立てている。

佐賀県では、総合計画を作っており、その中から抽出して総合戦略をつくっている。内容は各自で見えていただいて、具体的な説明は省略する。

佐賀県内の市町では、国、県の戦略を勘案して総合戦略をつくることになる。九州内の大分県や熊本県は、県が主体的に市町村を集めて作成している。

佐賀県は、県は県、市町は市町という考えで作っている。佐賀県の考え方を参考程度に

見ていただければと思う。

今後は、1市町のみでやっていくのではなく連携してやっていくことになると思われる。武雄、嬉野、鹿島などと連携しないといけないのではと思う。

今年度は各市町でやるのが手いっぱいという状況になっている。

(3) 白石町人口ビジョン(素案)及び白石町まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子(案)について

■白石町人口ビジョンの説明

人口ビジョン対象期間は平成 72 年までを設定している。

人口動向については、2010 年の人口は 25,607 人となっている。2010 年以降は推計値を載せている。

出生・死亡・転入・転出の推移については、1995 年から 2013 年までの推移について、増減の合計を載せており、近年は、出生・死亡・転入・転出の推移合わせて 300 人ずつ減少している。

白石町からの転入・転出については、佐賀市への移動が一番多い。次に福岡市への転入が多い。また、鹿島市や武雄市の転出が多くなっている。

合計特殊出生率の推移については、2012 年時点で、国の出生率 1.41、県は 1.61、白石町は 1.60 となっている。

将来人口推計と分析については、佐賀県準拠、社人研、創成会議の推計がある。

社人研は、合計特殊出生率を、2020 年に 1.49、2030 年に 1.47、2040 年に 1.47 に設定している。移動に関する仮定は、平成 17 年～平成 22 年の国勢調査に基づいて算出された純移動率が、平成 27 年～平成 32 年までに定率で 0.5 倍に縮小し、その後、一定に続くと仮定した場合での推計となっている。

創成会議の人口推計は、出生に関する数値は、社人研と一緒にあるが、移動については、0.5 倍に縮小せずに平成 47 年(2035 年)～平成 52 年(2040 年)まで概ね同水準で推移すると仮定した場合の数値となっている。

佐賀県の場合は、合計特殊出生率が 2020 年までに 1.77、2030 年に 1.8、2040 年に 2.07 に上昇させると仮定している。純移動率は、2020 年までは社人研推計準拠し、2020～2030 年まで段階的に 0 になると仮定している。それを白石町に当てはめて作成している。

人口将来展望については、白石町でも前年度総合計画を策定したが、人口の推計も行っている。白石町では、人口減少が起こっている。ただ、人口減少は全国どこでも起こっていることで、白石町に限ったことではなく、総合計画でも書いたように、人口減少を悲観することなく子育て支援や定住促進の施策によって人口減少のスピードを緩めることにする。

将来展望のところで、総合計画を踏まえて将来人口を検討した結果、合計特殊出生率を 1.6 から 2040 年までに 1.8、2060 年までに 2.0 にする。純移動率については、社人研をベ

一に、若年層の転入超過のための施策、農業従事者の誘致、6次産業の充実により、その結果、佐賀県準拠よりも低い数値になっているが、社人研と比べて2040年には、800人プラス、2060年には2,100人プラスになっている。

残りのページは、独自推計をもとに、大字別で人口推計を行っている。

人口ビジョンについては、全国的には3つのパターンがあるのではと思われる。

1つは、50年先のことなので、国のパターンにあわせる。2番目が20年後に50万人になるが50年後には30万人の人口を確保するためにどうするかを検討する。3番目が慎重に独自推計を行うパターンがある。白石町は3番目のパターンになる。

合計特殊出生率について、2040年までに1.8、2060年までに2.0にすることにしているが、2.0は今資料を取り寄せて正確な数値を計算しているところである。昭和50年代の合計特殊出生率が2.0であることから、ここまでに戻すということである。人口が減らないという水準が2.07となるが、過去の実績があったということで2.0という数値を使っている。全く根拠がないということではない。

あとは、佐賀市や江北町、福岡市の方に人口が出て行っている。転出をいかに阻止するのか、また、いかに転入者を増やすのか、あとは結婚・出産・子育てにいい環境を整えて、いかに子どもの数を増やすかという考えである。この考え方は、白石町だけでなく全国的な考えではないかと思われる。

■総合戦略骨子（案）の説明

今までの計画は、役場の中で作って固まってから公開していたが、まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定するにあたっては、皆さんにもご意見をいただくということで、ワールドカフェをしたり、会議をしたりしている。

骨子案については、こういうことはできるのかなど実行性もこれから議論していく。今考えている途中ということで骨子を出しており、足りないということもあるかと思われる。

人口減少の1番の要因となっていると思われるのが、基本目標①の部分である。働く場所がない、働く場所があっても稼ぐ場所がないなどがあると思われる。ワールドカフェでも白石町は農業ではないかという意見もある。商工業、漁業もあるが、まちでどういことができるのかを、考えていくということで、骨子をつくっている。

計画期間は今年度を含めて5年間である。短期間で作成しているので、今後検証することになる。新しいアイデアを入れるなどこれが最後ではないということで考えていただきたい。

国や県と同じように基本目標を4つの分野に分けている。

・基本目標①

分野は、企業誘致や起業・創業支援、農業法人化、新規農産物開発等である。

基本目標①は仕事の創出になるかと思うが、現状・課題・施策とかみ合っていないところがある。

(1) 就活サポート事業は、国・県道など主要道路沿いに女性を意識した事業所や店舗を誘致することを考えている。

(2) 国・県等の公共的機関の誘致は、佐賀県が気象大学校の誘致をするということで、白石町も気象大学校の誘致に手を挙げている。県からは、実現の可能性は低いだろうと言われているが、他に県の公共施設誘致なども考えている。公共的機関としているため、NPOなどの誘致も考えている。

(3) 教育・人材育成機関の誘致ということで、農業に力点を置いたときに教育機関の誘致という意見があり、とくに農業女子に着目して大学校を作ってはどうかという話があった。

佐賀農業高校があるので、例えば国際化していくなどの意見もあった。文教都市と言われるところについて、学生がいるところについては人口が増えることがいわれているが、それを定着させるのが問題である。

新規就農者及び農業後継者の育成・確保については、農業に絞った内容になっている。農業従事者確保については、担い手や後継者の確保について、雇用者を増やすためには、農業に従事しながら経営者として育成していく事業である。

新規農業就業対策支援事業は、国の事業などもあるが、例えば玉ねぎ小屋やトラクターなどすでにあるところはよいが、設備が整っていない後継者のために支援ができないかという施策である。

「しろいし農業塾」は、最近開校したが、この取り組みを続けていく。実際に4人入っている。

3 (1) 白石町創業者支援制度は、農業だけでなく、ものづくりに関して、デザイナーに来ていただく。例えば、ものづくりの集積もアイデアとして考えられる。

(2) 健康補助食品等の原材料となる農産物の開発に伴う雇用の創出については、農業では玉ねぎが主要作物になっているが、作業工程で重いため、女性・高齢者のために軽量なものができないかということである。唐津地区ではコスメティック構想があるが、健康補助食品の原料となる農産物ができないかということで、企業もセットで来ていただいて、企業と組んで作物を作っていく。ただし、優良農地については、引き続き同じ作物をつくることに主眼を置き、中山間地、休耕田で作物が栽培できないかということである。

(3) 6次産業化の推進ということで、今、段階的にやっているが今後も継続をしていく。

・基本目標2

施策分野は、シティセールス、定住促進などについて整理をしている。

1 白石町の魅力発信ということで、(1) 道の駅整備事業は、検討組織をつくって考えている。農村レストランをつくるのは検討段階であるが、反映をされればこの取り組みを推進していく。

(2) がばいよかこ発信事業は、一番多かったのが、町のPRが不足しているという意

見である。いいところがいっぱいあるのに PR が不足していることで、経費がかかるが宣伝経費も入れている。マスコミや SNS も検討している。今、ホームページを作り直しているところである。知ってもらい、来てもらい、体験してもらいことになるが、まずは、知ってもらいという第一段階の強化を行う。

定住促進、移住支援については、(1) 農村型振興分譲宅地の創設ということで、今、補助事業を行っているが、移住者には、小規模の畑がほしいという希望が多いということで、農地付きの大きな区画を分譲してはどうかということである。有明沿岸道路のアクセスを考慮し、白石町から大牟田市にも通勤できることを狙ったものである。

(2) 空き家・空き地バンク、お試し移住ということで、今、空き家バンクを作る準備をしている。田舎に来てなじめないこともあるため、移住受け入れサポーターをつくる。これは町民にサポーターになっていただく。協働ということで町民に協力をいただき、例えば、区費などのトラブルなどに関する仲介サポーターになっていただくことになる。

(3) 町外への通勤・通学者への交通費の助成については、福岡市に転出が多いということで、例えば、特急での通学の助成ができれば、4年間でもつなぎとめができるのではないか。その間に白石町のことも見直してもらって、白石町に就職したり、白石町に住みながら福岡で働いてもらうことも考えていただく。

地域観光資源の再発見は、地域観光資源を PR していく。農業体験ができて、宿泊施設がないことが問題であり、旧福富町では、農家に民泊をしている。民泊も全国的にブームになってきているが、民泊の受け入れがネックになっている。例えば、白石町で農業体験をしてもらい、道の駅で買い物をしてもらいが、宿泊は嬉野温泉などと組んでパッケージツアーが出来ないかということである。

(2) 杵島山系歴史散策コースの設定ということで、高城など魅力のあるものがある。杵島山系の歴史を生かして取り組めないか。

(3) 交通手段の拡充ということで、観光に来られても、白石駅から公共交通機関がない。例えば、役場に電話がかかってきて道を尋ねられても、役場に来ていただかないと説明がしにくい場合が多い。看板の整備も合わせて行う。また、佐賀空港や佐賀駅からレンタカーの助成ということで考えていく。

(4) 地域資源活用観光振興事業での計画事業は、交付金事業で挙げている。すでに町では、観光推進協議会で出てきたものと合わせて、取り組んでいく。

・基本目標 3

基本目標 3 は、結婚、子育ての支援ということになっている。施策分野としては、結婚支援、不妊治療、子育て支援、学校教育の充実、リフレッシュ事業である。この分野は、アイデアがたくさん出ている。

(1) 婚活サポート事業は、本人が積極的でないため、親同士で会って、子供につなげていく。

(2) SNS を使ったお見合いサイトの開設は、個人情報の問題もあるがアイデアとして挙げている。

出産に関することについては、(1) 不妊治療制度の拡充は県で助成を行っているが、県助成費の残りを全額助成する。これは、このままだと所得の多い方になるという恐れもあるし、また、不妊というプレッシャーもあるためである。

(2) 多子世帯への助成は、国が少子化対策大綱というものを作っており、多子化対策を行っているが、それとは別に4人以上への助成を考えている。

(3) 乳幼児用おむつ代の助成は、例えば乳幼児3歳未満を対象におむつ代を助成してはということである。おむつを売っている店が少ないのでどうかということもある。

3 (1) 病児、病後児保育の実施は、江北町の小児科に負担金を払って実施しているが白石町内でも実施できないかということで働きかけをしていく。

(2) ブライダルプロジェクトは、結婚5周年を迎えるカップルに食事券などを支給してリフレッシュしてもらう。

(3) ゆめてらす事業の拡大は、一時預かり事業について白石地域、福富地域でもできないかということで拡大をしていく。

(4) パパ向け子育てセミナー等の開催については、父親の子育て参加が欠かせないということでセミナーを開催する。

(5) 家庭保育手当の創設ということで、保育所に預けず、家にいる場合の手当を考えているが、女性の社会進出を言いながら家庭内に留めるというのもどうかという意見もある。

(6) 保育料の見直しは、第2子以降からの保育料を無料にするということで、国の方がすでに検討をされている。昨年度検討したが、保育料の無料化を行うためには、年間1億かかるという財政の問題がある。

(7) 子育て世代の情報発信については、例えば白石町のホームページでも子育てに関するコンテンツが集積されていないということで、情報発信体制を整える。

(8) 子育てに関するワンストップ相談体制の整備は、幼児については福祉課、児童については学校教育課ということで分かれているが、ワンストップで相談できる体制ができないかということである。

(9) 施設の充実に関することは、子供たちが安心して遊べる公園がないということで、各地区の公園までは手入れができないが、白石中央公園、福富マイランド公園など地域に1つの公園で、子供が遊べるようなことを意識する。例えば、白石中央公園は、土が堅いという意見があったように、子どもや子育て世代の視点を入れて整備をしていく。

(10) の給食費無償化はすでに行っているが、小学6年生、中学3年生を対象に続けて行っていく。

教育環境の整備で、(1) 多世代コミュニティーモデル事業は、小中学校の統合により、上級生が小さな子どもの面倒をみるということで、例えばスポーツでは、小中学校と続け

てスポーツができる。小学校から部活ができればスポーツの向上ができるのでは。

(2) コミュニティスクールは昨年度から進めており、町内全域に今後も導入を進めていく。

・基本目標4

基本目標4は地域づくり、住みよい環境ということで整理しているが、ここが難しい。あまり施策が出ていない。九州の中でも佐賀県は災害が少ないことで、白石町でもPRしたい。取り組みとして、もっと防災組織化を進めていくなどがある。また、例えば高齢者の生きがいづくりや、女性の活躍推進、バリアフリーなどになる。

自主防災組織は1つしかないが、東日本大震災では、身近な近所の助け合いが有効だった。ここ数年白石町では大きな災害があっていないが、鬼怒川の水害などがあり、六角川で起きないとも限らないため、自主防災組織の組織化推進が大事である。

(2) 公用車のパトカー化事業については、赤色灯の設置などが可能かどうか確認はできていないが、面白いアイデアとして挙げている。

自然にやさしいまちは、水源地に太陽光を設置されているため、それを売りにして、自然エネルギーのまちづくりができないかということである。現在、市町村で発電事業を行っているところもあるが、それを下水道、合併浄化層の補助金に使うことで、さらに環境にやさしいまちづくりを進めていく。また、電気事業に参入して町民に安く供給出来ないかということで挙げている。

このように、骨子として挙げているが、この後に素案、案という形で進めていく。その中で、どうしてもできないということで外すこともある。また、新しいものを追加することもある。あくまで、現時点のことをご理解をいただきたい。

■質疑等

・参加者意見

自主防災組織について、1つしかないではなく複数あった。

・回答

了解した。現在の組織数をもっと増やしていくということである。

・参加者質問

教育環境整備4、コミュニティスクールとはどういうものか。

・回答

昨年度から導入した。学校、地域、保護者などが組織している学校運営協議会を作ったもの。総合学習でJAと一緒にあって農業などの活動行うなど共同で取り組んでいる。

■協議の進め方説明

各テーブルで各基本目標の話し合いをしてもらう。

基本目標①は1のテーブル、基本目標②は2のテーブル、基本目標③は3のテーブル、基本目標④は4のテーブルで話し合っていた。

20～30分位で席替えをする。好きな場所に移動して、また、話し合っていた。

具体的に何ができるか、どうすればよくなるかという方向で考えていただければと思う。現在の資料の内容はほとんど役場がやることになっている。町民どうしや町民団体で、両方でやるなど、協働で何かできないかということも話し合っていた。

みんながなるべく発言するようにしていただきたい。必ずしも意見を統一していただく必要はない。

話し合いの手法は、バズセッション方式+ワールドカフェ方式で行っていく。事務局の人間も席に入らせていただき6人で話し合っていたことになる。時間がきたら、1、2、3番の人は席替えをしていただく。4、5、6番の方は、そのままの席で、前セッションでやった内容を新しく来られた方に伝えていただく。

■話し合い結果発表

・セッション1

佐賀農業高校と農家とのつながりをもっと盛んにしたい。授業の中だけでなく、もっと、農家の楽しさが伝わればいいのではないかな。

農産物に関しては、安心、安全なものを選んでいく時代であると思う。白石町は交通の便が悪いが、わざわざ来きてもらって買ってもらえるようなもっとクオリティの高いものを作るようにしたらよい。

小中学生の農業体験は、土曜日の休みを開講して農業体験をする。

農業高校から出て農業がしたくなるような土地というものを発信できるようにしたらよい。

就農に関しては、トラクターがあるが、引き継ぐためのサポートをする役割をもった農家が必要である。

・セッション2

PRについて、白石町は歴史的に有名などころもあるが、町民の方が、意外にその事実を知らない。

町内の方にイベントの発信が難しい。町内外にいかにか発信していくかということも大切である。

住みやすさについては、インフラが整っていない。駅が老朽化していい、高校生が1時間に1本の列車を待つにしてもどこで待っていたらよいかわからない状況にある。JRに

お願いしたり、施設を近くに整備するなどの検討が必要である。

白石町はバスやインフラが整っていないが、地形が平たんで、自転車でもどこでもいけるのではないかと。PRとして、“自転車があれば暮らせるまち”ということができないか。

JRが行っているウォーキングに自転車を貸し出してサイクリングなどのイベントを行い、特産物をからめて白石町をPRしていけないか。

広くPRも大事であるがピンポイントで良さをPRしていくことも考えていかなければいけないのではないかと。

・セッション3

来月11月15日、正徳寺で婚活パーティを行う。念珠をつくったり、ヨガをやったりする。このようなイベントをするのにあたり、費用がかかる。

鹿島市では婚活を前面に出さずに、女性がひきつけられるゲーキバイキングなど特色があって、女性は参加しやすい。婚活パーティとなると参加しづらいということもある。

また、このような場合、個人だけでイベントを立ち上げていくと金銭面などで難しかったりする。

白石町を知ってもらえるためにも、町がタッグを組んでできればよい。町にもサポートしていただきたい。

例えばライブなどにして、人を引き付けるなどにしていければと思う。婚活パーティに限らずイベントなど役場と協力してやっていければと思う。

江北町のワークショップにいったが、県からの補助があり、羨ましくも思った。白石町には、中央公園のステージなどすごくいい場所がたくさんあるので生かしてはどうか。町が楽しくなればよいと思う。

この会議には、意識の高い人が集まってくるので、この意見を反映させてほしい。

・セッション4

14歳までを年少人口、15歳から64歳までを生産年齢人口、65歳以上を老年人口としているが、私に置き換えるとあと5年で老年人口となる。もう、老人扱いかなという感じになる。今まで元気だったのが、その呼び名一つで元気がないというふうになるが、白石町独自で例えば老年人口70歳までに設定してはどうか。そうすると生産年齢人口が千何百人かは増えることになる。実際に70歳や75歳の方は現役で、仕事をしていて、若者よりも大きな収入を得ている場合もある。その人たちが税金も払うし、病院にもいかない。老年人口となると気分的に仕事もしなくていいのかとなってしまふ。今後、白石町について20年、30年と考えたときに、年少人口も減るだろうし、老年人口は増える傾向にあるため、老年人口などと分けるよりも、みんな一緒に働ける人は働いて、白石町にお金を落としてもらうようにしないとかなかなかうまくいかないのではないかと。

実際に、生産年齢人口の人でも仕事をしない人も多い。15～64歳という年齢にこだわる

必要はない。目線を変えていけば、活用をできる部分がいっぱいあるのではないかと。

例えば、観光について NPO 法人を立ち上げて役場の活動も全部 NPO に持ってくる。そうすれば、民間の方ももっと活用することができる。来訪者からのお尋ねについて、一か所で解決できるようにする。民間をベースにした組織であれば、雇用の増加にもなる。

できるところをずっとやって、10年、20年後よくなったと思えるようにしたらよい。(老年人口など) 1年、2年のスパンで数字に一喜一憂するのはどうかと思う。

また、来訪者にとっても窓口が一つで済むように、役場の組織を解体して作り直すぐらいの組織改革が必要である。町民が使いやすい組織にすることが必要である。

若者については、つなぎとめるよりも、一回外に出てもらってもよい。外に出ている間に PR をして、1人でも白石町に戻ってくればよい。囲い込むと若者は反発する。外に出ている若者が帰りたいと思えばよい。

白石町の昼間人口と夜間人口があれば教えていただきたい。

■その他意見

席替えを1回しか行わなかったため、その他意見があればお願いしたい。

・かばいよかとか発信事業について、玉ねぎのねぎ坊主で発信すればよい。前回は話したが、まずはネギ坊主をアンテナに差してもらおう。

・車に子供を乗せているステッカーを張っていることが多いが、海外などで実際、大きな事故が起こった時に、救出の際に取り残されたために始まったといわれている。

例えば、唐津のステッカーなど、葱坊主のステッカーも面白いし、白石町の子供という意味で、そういうところからはじめてもよいと思う。

・役場の玄関のところに放射能の測定器があるが、玉ねぎの臭い指数も面白いと思う。

・子供だけでなく白石町のおばちゃんがつけているステッカーもよいと思う。

・イベントのときだけ町報にお知らせするのを無料にしてもらいたい。

回答

総合戦略を進めるにあたって、もう少し大きなくくりで書き込んでいくことになる。実際するとき、詳細の段階で検討する内容になる。

例えば、町民のみなさんに PR のサポーターになってもらって PR のアイデアをもらうなど、実施の段階で方法論として、また、考えていきたいと思っている。

アイデアは尽きないと思うが、大きな方向性として、どういうものをするかについて、今後も考えていければと思う。

■その他

10月12日にプロモーション映像の作成を行うため、参加の協力をお願いする。

■推進会議の今後のスケジュール

次回は、素案について10月28日に話し合ってください。

協働でできることがないかを引き続き考えていただきたい。

案に対するコメントは、パブリックコメントでHP、役場の縦覧で意見をお願いします。皆様にはあと、2回ご意見をいただく形となる。

次回10月28日に予定しているので、出席の方をお願いします。

セッション3

セッション3

1. 研修 + 10分
19分45秒

1. 研修 + 10分
19分45秒

研修 + 10分
19分45秒

研修 + 10分
19分45秒

理念

一歩ずつ
↓
多量集積から

多量集積から
多量集積から
多量集積から

1/15

PR...
PR...
PR...

PR...
PR...
PR...

女性に与えられる役割は必要

意見の通り

個人に与えられる役割

支援のフェーズ

公算で集積する本質

見直し

見直し

見直し

見直し

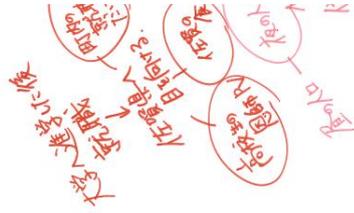
見直し

組織高に人が集まるのは
集まっていくので
この意見はしっかり反映して

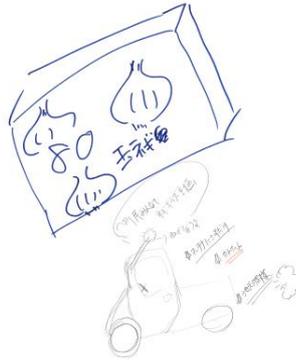
物事に
物事に
物事に

寛政改革

個人と現場の
一ツのノットをや
現場と現場は
住民の力が
ノットが



役場の
支所を作るにはいい



人口ビジョン
高齢者に雇用を!

町民目線からの
役場！相談等
カスタム化